

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171600253		
法人名	有限会社 あいケアー		
事業所名	たけのこし A舎		
所在地	岐阜県瑞浪市薬師町2丁目52番地		
自己評価作成日	令和5年8月10日	評価結果市町村受理日	令和5年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171600253-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人を尊重し、個人に合わせた対応を心がけています。
 何よりも利用者様の笑顔を大切に、健康面や心のケアを行い、
 コロナ対応も変わりつつあるなかで、ご家族との交流や外出の機会を増やせるよう
 工夫し取り組んでいます。
 室内でも楽しめる様、季節の行事を行ったり、朴葉寿司やお好み焼き、おはぎ等ご自分で作る事が出来る
 食事を取り入れたりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

安全を最優先としながらも、生活の中での楽しみとは何かを考え、自分で選ぶこと、役割を持つこと、
 人とのつながりを実感できる場を提供している。コロナの影響だけでなく、利用者自身の身体機能の
 変化など、様々な要因によって「できないこと」は増えつつある。しかし、また皆で楽しく外出できるように
 したいという願いが、日々のストレッチ体操に取り組む原動力となっている。
 利用者が充実した日々を過ごすためには、職員の手も必要不可欠であり、職員個々の持つ得意なこ
 とを活かし、レクリエーション活動に取り入れている。職員は、介護技術を磨くことだけでなく、利用者
 との関わりを通して人としての内面を磨き、生き活きと働ける環境作りにも力を入れ、お互いにフォローし
 合える関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム、玄関等目の届く所に掲げ、いつでも意識・共有できるようになっていきます、更にミーティングでどの様に実践に繋げていくかを話し合い取り組んでいます。	開設当初より、「個人を尊重し、その人らしい生活を優しい心で支えていく」ことを理念とし、日々の支援の中で実践している。職員一人ひとりの個性や強みを大切にしており、「正範語録」を掲げ、意識統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域の行事がすべて中止となり、交流できる機会がありませんでしたが、今年はお神輿が行われる予定ですので、皆さん楽しみにしています。	地域行事が徐々に再開されつつあり、利用者は参加することを待ち望んでいる。地元の職員が多く、地域の情報が自然と集まってくるため、可能な限り地域の一員として参加できるよう努めている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	たけのこ施設内での運営推進会議はコロナ禍で出来ませんでしたが、市役所、民生委員、区長、長寿会、ご家族様に現状報告を文章で報告、質問・ご意見等返信を頂き業務に活かしています。	運営推進会議の書面開催が続いており、会議の案内には写真も入れている。長寿会の代表と顔を合わせた時には、会議の案内を読んだ感想などを聞いている。会議の場以外でも、地域の人から意見をもらった際には、運営に活かすよう努めている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市から書面にて意見や質問を頂ける様に用紙を同封したり、行政との互いの協力やケアサービスの向上、周知に取り組んでいます。	市の担当者や地域包括支援センターとは、感染防止のために、メールや電話を使って情報交換を行っている。必要に応じて、ホームでの対応や指針等について相談したりすることもあり、より良い関係を作っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は全員周知し、県主催の研修に参加したり、ミーティング、運営推進会議でも取り上げ、ヒヤリハットや事例を参考にし、知識の向上と理解に役立てるよう取り組んでいます。	安全を確保しつつ、身体拘束にあたるような行為が生じないよう、職員がアイデアを出し合い、支援の工夫で乗り切っている。身体拘束をしないケアへの理解を深めるため、職員会議等で事例を通して考える機会を設けている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にも参加し内容を共有し、マニュアル、事例等も参考にしながらミーティングで話し合いをし防止に努め、常に職員は利用者に対し気配りしています。	職員一人ひとりの考え方や思いの違いから、支援に差が生じてしまうこともある。「自分がされたら、家族がされていたら、どう思うのか」を考えることを基本としている。間違った解釈により、不適切ケアに繋がらないよう注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には制度について理解してもらい、個々に合わせて対応し、必要に応じ活用しています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず、代表者と管理者または職員立ち会いの下、家族へ丁寧に話をさせていただいています。例を挙げ質疑応答で双方納得した上での契約を行っています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは普段の会話から要望をお聞きし、ご家族様にはケアプランの返信や、電話で生活の様子をお伝えし、意見を頂いたりして、ケアプランや運営に反映出来る様、努めています。	家族との会話を大切にしていることもあり、退居した家族とも良い関係が続いている。面会時や家族からの電話で、「写真付きで日常の様子を伝える、『たけのこし便り』を楽しみにしている」との嬉しい意見をもらうこともある。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で全員ミーティングは難しく、代表者が管理者、職員から個別に話を聞いたり、管理者が職員の意見を代表者に伝えたりと、積極的に意見交換をしています。	代表は意見に耳を傾けるが、口は出さないようにして、運営に関する課題が出た時でも、職員同士で意見を出し合い、様々なことを改善していける体制にしている。一人の職員の意見だけで決めず、色々な意見を踏まえて解決に向けて取り組んでいる。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表、管理者は職員の労働状況を把握し、人事課課表を参考に、話し合いをしながら出来る限り、就業環境の改善に努めています。	個別面談を行い、職員本人の意向を聞いている。職員は「お互い様」の気持ちで働いており、得意なことを活かせる場があったり、無理のない範囲で勤務できたりしている。働きやすい職場であることの証明が、勤続年数の長い職員の多さに表れている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市での研修には参加できるようにシフトを調整しています。研修後、資料を他の職員に読んでもらったり、内容を報告する機会を作って全職員に周知しています。	資格取得や有無にこだわらず、自ら学びたいという気持ちを大切にしている。利用者支援を通して学んでもらうことに力を入れており、高校卒業後の若い職員が、業務を通して生活力を高め、両親が大変喜んだというエピソードがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等を活用し、他の事業者との意見交換等を行っています。他のグループホームとの交流の場がもっと多くあれば良いと思います。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないことを見極めて、出来ることは本人のペースに合わせてやって頂くようにしています。生活の場なので、こちらから声掛けしお手伝いをお願いすることもあます。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で利用者から思いを聞きとり、管理者・ケアマネ・職員、時には家族と話し合いをし、希望に添えるよう誠意をもって対応するよう努めています。	日常の様子から思いを汲み取ったり、いつもと違う刺激のあることをやってもらい、反応を見たりして、思いや意向を把握している。例えば、浴衣を着た時に普段と違う表情を見せたこともあり、日頃から利用者の言動にアンテナを張るよう努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で個々の特徴を把握し、ご本人、ご家族からも話を聞き、随時、見直しを行いケアプランを作成しています。	利用者と家族の意向を取り入れ、支援内容が具体的に分かる介護計画を作成している。支援の方法や内容、支援を行う時間、その目的などを細かく記載し、新しい職員にも分かるよう工夫している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・申送りノート等、記録を資料としケアプランを作成しています。ミーティングでも利用者一人一人について情報を共有し、介護計画の見直しについて話し合いをしています。	「日報」や「申し送りノート」は、手書きで記録している。職員それぞれの言葉で、気づいたことを記入しているため、職員の生の声が情報として記録されている。これらの日々の記録の積み重ねを介護計画に反映させ、より良い支援に繋げている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望に合わせ、柔軟に対応しています。家族から要望があれば、できるだけ事は相談に応じ行う様に心掛けています。	無理強いすることなく、調理の手伝いや掃除など、利用者自身がやりたいことをやってもらい、その時の状況に合わせて対応している。利用者が生き活きと活躍できる場を提供し、個々のニーズに合わせた柔軟な支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為に地域のイベント等が中止となつてしまい大変残念ですが、利用者の心身状態を把握し、外出が出来なくても楽しく過ごせるようスタッフ皆で工夫しています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医のままか、月2回訪問診療してもらえる提携医かをご家族に決めて頂きます、歯科等もご家族からの希望があれば支援しています。	かかりつけ医は、利用者と家族の希望に沿って決めている。家族対応にて通院受診する際には、情報共有をして適切な医療が受けられるよう支援している。高齢者介護への理解がある訪問歯科との連携も取れている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は相談員や家族と連絡を取り合い、利用者・ご家族様の希望に合わせた対応が出来よう連携に努めています。退院後はサマリー等を参考にその後のケアに活かせるよう心掛けています。	入院初期から関わり、病状を確認しながら退院に向けての調整や話し合いを行っている。入院生活によって体力の低下や状態変化がある場合には、医師や相談員から情報を得て、退院後の受入れやホームでの支援方法について検討している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には終末期のあり方について、家族・管理者・看護師・主治医・ケアマネで、場合によっては、ターミナルも視野に入れ話し合いをし、出来る限り家族の希望に添える様努めています。	重度化に際し、利用者の状況を伝えて家族の意向を確認し、看取りの希望には可能な限り対応することとしている。看取りを行う場合には、主治医と訪問看護の協力を得ながら、利用者にとってより良い最期となるよう努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや災害対策マニュアルを作成しており、職員が判る場所に設置しています。ミーティングで対応の確認もしています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に1度の消防職員訪問による訓練と他に1度の自主訓練、合計年2回以上行っています。ハザードマップを利用し、地域の方と協力し対応出来るよう連携をとっています。	年2回の防災訓練には、利用者の参加もある。消防署員から、身の回りのもので災害時に有効に使えるものや、その使用方法などの具体的なアドバイスを得ている。運営推進会議で防災を議題に挙げるなど、地域の協力も得られるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重しながら、穏やかに過ごして頂けるようコミュニケーションをとり、個人に合わせたケア・言葉かけを心掛けています。	「親しき仲にも礼儀あり」を意識し、利用者が踏み込まれたくないところには触れず、個々を尊重しながらコミュニケーションをとるようにしている。職員ごとに違う対応にならないよう、利用者の思いや考え方を共有して支援している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から希望や思いをくみ取り、色々な場面で自己決定出来るような状況を作ったり、声掛け・見守り等支援しています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れの中で、一人一人の体調や気分配慮・尊重し、穏やかに過ごして頂けるようなケアを心掛け支援をしています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめる様に、献立は季節感のある料理を取り入れ、利用者と相談してメニュー決めていきます。朴葉寿司やおはぎ等、ご自分で作ってもらうこともあります。	畑で採れた旬の野菜も取り入れ、三食手作りの食事を提供している。利用者のリクエストに応えたメニューにしたり、お寿司の出前を頼んだりして、非日常の食事も楽しんでいる。自分のペースで、ゆっくり食べられるように配慮している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬のものをバランス良く献立し、量や形態については個々に対応する事で栄養の確保に努めています。水分補給は食事・お茶の時間、それ以外の時間でもスポーツドリンクなどを用い、摂取量も把握しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、出来る方は自身で洗って頂き、必要に応じて介助しています。週に1度は義歯を預かり洗浄剤を使用しています。場合によっては歯科医に受診をしています。	口腔ケアに力を入れおり、歯の汚れ具合を見て健康状態を把握している。歯科医から歯磨きについての助言をもらい、歯や舌の清掃、義歯の管理をし、清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、時間をみながら早めに声掛け誘導をしています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度の目安の曜日は決めています、個々の体調や要望に合わせて介助し、ゆったりと湯船に浸かって頂き、楽しくくつろげる時間になるよう心掛け支援しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムが乱れない様に注意し、日中でも様子をみて休んでもらうようにしています。休息、入床、起床時間は利用者の希望を尊重し、支援をしています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の用法・容量を理解し、翌日1日の分を夜勤者がセットし、再度の内容を確認、服用し飲み込むまで見守りします、薬の変更や追加の場合は受診記録に記載し申し送りをしています。	薬を届けてくれる薬剤師から処方薬について説明があり、ホームから服薬の相談もしている。薬の記録を共有し、誤薬防止に努めている。利用者の負担にならない服薬を目指し、減薬にも取り組んでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かした、家事・レクの役割をお願いしたり、トランプ・体操・畑仕事・パズル等各種レクを、皆さんそれぞれに楽しめる様、支援しています。	敷地内に畑と花壇があり、利用者は室内から成長を楽しみに眺めている。職員と一緒に水やりや草取りなどを行い、日々の世話を役割としている利用者もいる。利用者それぞれが、異なる方法で、楽しみながら関わっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、外出をお断りしており、外出等は出来ませんが、天候と体調に配慮しながら庭でのお茶会や施設でのイベント等を工夫行っています。	人の多いところを避け、花見や鯉のぼりを見に公園に行ったり、庭でのお茶会やお弁当を食べるなど、外の空気を感じる機会を作っている。積極的な外出支援が再開される時のために、YouTubeを利用して、体操しながら体力づくりをしている。	家族の意見も聞きとり、外食などの外出支援の再開に向けた準備をしていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの為、利用者自身が買い物に出掛ける事が出来なくなりましたが、職員が事前に聞き取りをしたり、好みを把握し、買物に行っています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身の部屋で、ズームを利用したりリモート面会や、電話で話ができるようにしています。暑中見舞いや年賀状を塗り絵にし、メッセージを入れてご家族に送っています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調・湿度・温度管理には湿度計等を置いて管理をし、快適に過ごして頂けるようにしています。 日常生活の中で様子を見ながら、生活環境を整えて行ける様、心掛けています。	皆が集うリビングは、家庭に近い環境や雰囲気を出せるよう、家具の配置を工夫している。気持ち良く過ごせるよう、掃除が行き届いており、清潔感が保たれている。ソファには職員の手作りカバーが掛けられており、温かみのある存在となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでいたり、テレビを観ていたり、お部屋で休んだり、利用者それぞれにくつろげる環境を作れるよう心掛けています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族からお話を聞き、落ち着いて過ごせる環境作りを心掛けています。利用者の大事にしてきた事や物をお部屋に取り入れる様、出来る限り支援しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干し、畑仕事、数字計算、体操など、残存能力を把握し、一人で出来ることは職員が見守り、清潔で安全な生活空間になるよう、工夫し確保しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171600253		
法人名	有限会社 あい케어		
事業所名	たけのこし B舎		
所在地	岐阜県瑞浪市薬師町2丁目52番地		
自己評価作成日	令和5年8月10日	評価結果市町村受理日	令和5年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人を尊重し、個人に合わせた対応を心がけています。
 何よりも利用者様の笑顔を大切に、健康面や心のケアを行い、
 コロナ対応も変わりつつあるなかで、ご家族との交流や外出の機会を増やせるよう
 工夫し取り組んでいます。
 室内でも楽しめる様、季節の行事を行ったり、朴葉寿司やお好み焼き、おはぎ等ご自分で作る事が出来
 食事を取り入れたりしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171600253-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年9月7日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム、玄関等目の届く所に掲げ、いつでも意識・共有できるようになっていきます、更にミーティングでどの様に実践に繋がっていくかを話し合い取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域の行事がすべて中止となり、交流できる機会がありませんでしたが、今年はお神輿が行われる予定ですので、皆さん楽しみにしています。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	たけのこし施設内での運営推進会議はコロナ禍で出来ませんでしたが、市役所、民生委員、区長、長寿会、ご家族様に現状報告を文章で報告、質問・ご意見等返信を頂き業務に活かしています。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市から書面にて意見や質問を頂ける様に用紙を同封したり、行政との互いの協力やケアサービスの向上、周知に取り組んでいます。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は全員周知し、県主催の研修に参加したり、ミーティング、運営推進会議でも取り上げ、ヒヤリハットや事例を参考にし、知識の向上と理解に役立てるよう取り組んでいます。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にも参加し内容を共有し、マニュアル、事例等も参考にしながらミーティングで話し合いをし防止に努め、常に職員は利用者に対し気配りしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には制度について理解してもらい、個々に合わせて対応し、必要に応じ活用しています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず、代表者と管理者または職員立ち会いの下、家族へ丁寧に話をさせていただいています。例を挙げ質疑応答で双方納得した上での契約を行っています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは普段の会話から要望をお聞きし、ご家族様にはケアプランの返信や、電話で生活の様子をお伝えし、意見を頂いたりして、ケアプランや運営に反映出来る様、努めています。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で全員ミーティングは難しく、代表者が管理者、職員から個別に話を聞いたり、管理者が職員の意見を代表者に伝えたりと、積極的に意見交換をしています。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表、管理者は職員の労働状況を把握し、人事考課表を参考に、話し合いをしながら出来る限り、就業環境の改善に努めています。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市での研修には参加できるようシフトを調整しています。研修後、資料を他の職員に読んでもらったり、内容を報告する機会を作って全職員に周知しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等を活用し、他の事業者との意見交換等を行っています。他のグループホームとの交流の場がもっと多くあれば良いと思います。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないことを見極めて、出来ることは本人のペースに合わせてやって頂くようにしています。生活の場なので、こちらから声掛けしお手伝いをお願いすることもあます。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で利用者から思いを聞きとり、管理者・ケアマネ・職員、時には家族と話し合いをし、希望に添えるよう誠意をもって対応するよう努めています。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で個々の特徴を把握し、ご本人、ご家族からも話を聞き、随時、見直しを行いケアプランを作成しています。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・送りノート等、記録を資料としケアプランを作成しています。ミーティングでも利用者一人一人について情報を共有し、介護計画の見直しについて話し合いをしています。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望に合わせ、柔軟に対応しています。家族から要望があれば、できるだけ事は相談に応じ行う様に心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為に地域のイベント等が中止となつてしまい大変残念ですが、利用者の心身状態を把握し、外出が出来なくても楽しく過ごせるようスタッフ皆で工夫しています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医のままか、月2回訪問診療してもらえる提携医かをご家族に決めて頂きます、歯科等もご家族からの希望があれば支援しています。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は相談員や家族と連絡を取り合い、利用者・ご家族様の希望に合わせた対応が出来るよう連携に努めています。退院後はサマリー等を参考にその後のケアに活かせるよう心掛けています。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には終末期のあり方について、家族・管理者・看護師・主治医・ケアマネで、場合によっては、ターミナルも視野に入れ話し合いをし、出来る限り家族の希望に添える様努めています。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや災害対策マニュアルを作成しており、職員が判る場所に設置しています。ミーティングで対応の確認もしています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に1度の消防職員訪問による訓練と他に1度の自主訓練、合計年2回以上行っています。ハザードマップを利用し、地域の方と協力し対応出来るよう連携をとっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重しながら、穏やかに過ごして頂けるようコミュニケーションをとり、個人に合わせたケア・言葉かけを心掛けています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から希望や思いをくみ取り、色々な場面で自己決定出来るような状況を作ったり、声掛け・見守り等支援しています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れの中で、一人一人の体調や気分配慮・尊重し、穏やかに過ごして頂けるようなケアを心掛け支援しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめる様に、献立は季節感のある料理を取り入れ、利用者と相談してメニュー決めていきます。朴葉寿司やおはぎ等、ご自分で作ってもらうこともあります。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬のものをバランス良く献立し、量や形態については個々に対応する事で栄養の確保に努めています。水分補給は食事・お茶の時間、それ以外の時間でもスポーツドリンクなどを用い、摂取量も把握しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、出来る方は自身で洗って頂き、必要に応じて介助しています。週に1度は義歯を預かり洗浄剤を使用しています。場合によっては歯科医に受診をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、時間をみながら早めに声掛け誘導をしています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度の目安の曜日は決めています、個々の体調や要望に合わせて介助し、ゆったりと湯船に浸かって頂き、楽しくくつろげる時間になるよう心掛け支援しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムが乱れない様に注意し、日中でも様子をみて休んでもらうようにしています。休息、入床、起床時間は利用者の希望を尊重し、支援をしています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の用法・容量を理解し、翌日1日の分を夜勤者がセットし、再度の内容を確認、服用し飲み込むまで見守りします、薬の変更や追加の場合は受診記録に記載し申し送りをしています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かした、家事・レクの役割をお願いしたり、トランプ・体操・畑仕事・パズル等各種レクを、皆さんそれぞれに楽しめる様、支援しています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、外出をお断りしており、外出等は出来ませんが、天候と体調に配慮しながら庭でのお茶会や施設でのイベント等を工夫行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの為、利用者自身が買い物に出掛ける事が出来なくなりましたが、職員が事前に聞き取りをしたり、好みを把握し、買物に行っています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身の部屋で、ズームを利用したりリモート面会や、電話で話ができるようにしています。暑中見舞いや年賀状を塗り絵にし、メッセージを入れてご家族に送っています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調・湿度・温度管理には湿度計等を置いて管理をし、快適に過ごして頂けるようにしています。 日常生活の中で様子を見ながら、生活環境を整えて行ける様、心掛けています。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでいたり、テレビを観ていたり、お部屋で休んだり、利用者それぞれにくつろげる環境を作れるよう心掛けています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族からお話を聞き、落ち着いて過ごせる環境作りを心掛けています。利用者の大事にしてきた事や物をお部屋に取り入れる様、出来る限り支援しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干し、畑仕事、数字計算、体操など、残存能力を把握し、一人で出来ることは職員が見守り、清潔で安全な生活空間になるよう、工夫し確保しています。		